

行政経営改革プランの取組検討にあたっての市民意識調査の結果について

町田市5ヵ年計画 17-21 行政経営改革プランの取組の検討にあたり、生涯学習施設や生涯学習事業の利用状況等を把握するため、市民アンケートを実施しましたので、結果を報告いたします。

1 調査の概要

実施期間	2017年9月15日～2017年10月4日
対象者	市内在住の20歳以上80歳未満の市民3,000人（無作為抽出）
調査内容	学習活動に関する現状・意向、生涯学習施設の利用状況など
実施方法	郵送配布・郵送回収

2 結果

回答部数 1,106部（回収率36.9%）

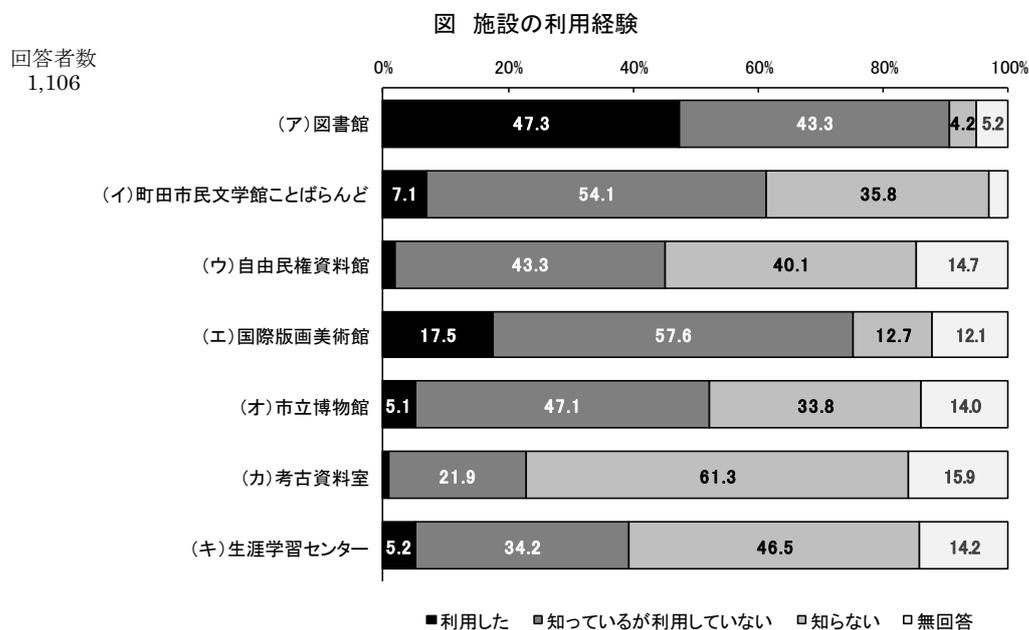
回答結果（抜粋）【別紙】

3 結果の公表

詳細については、3月下旬に町田市ホームページで公表予定です。

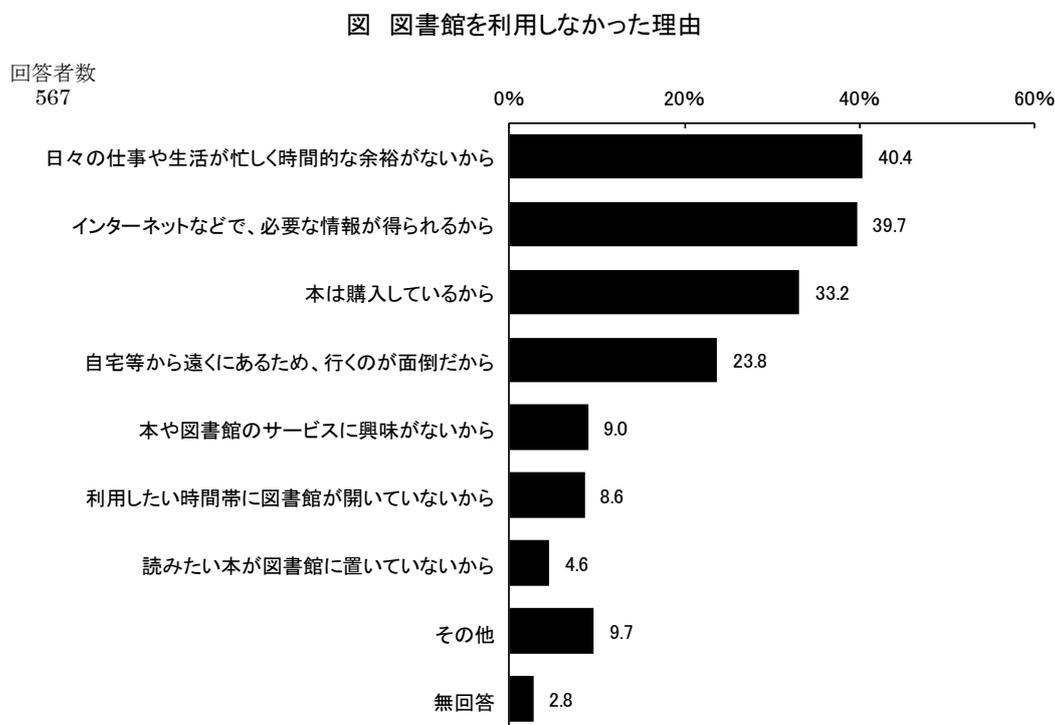
図書館について

◆あなたはこの1年間に、町田市内にある次の施設を利用しましたか。



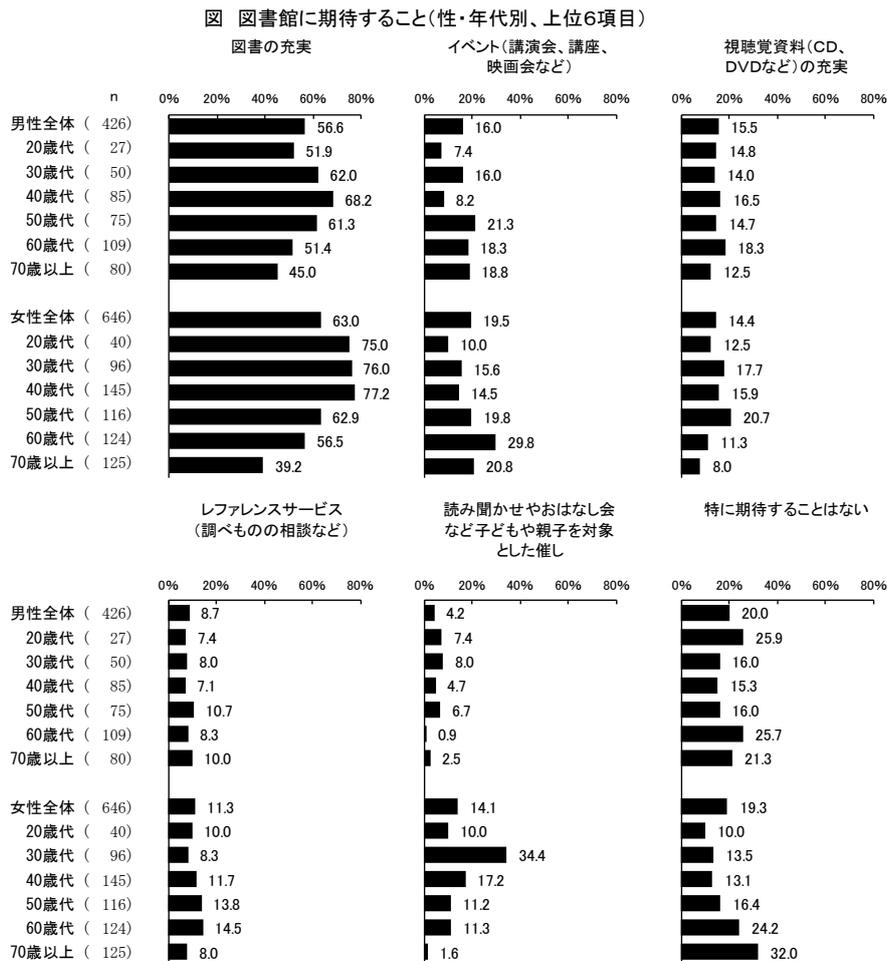
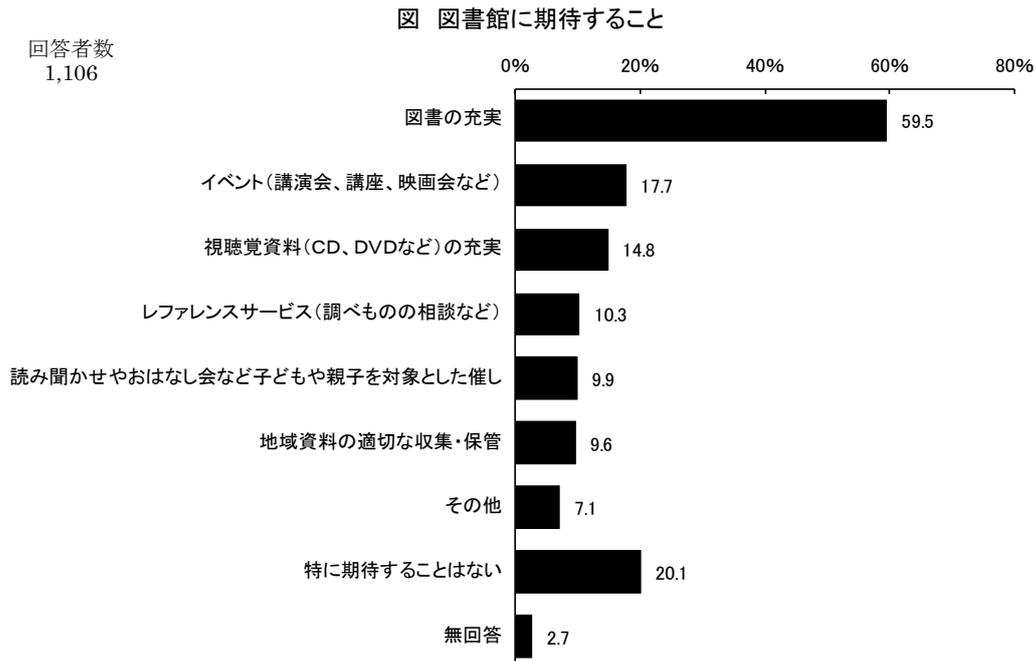
この1年間に図書館を利用したことがある市民は47.3%で、前回調査(38.0%)から増加している。

◆なぜ、図書館を利用されなかったのですか。(〇はいくつでも)



図書館を利用しなかった理由については、「日々の仕事や生活が忙しく時間的な余裕がないから」(40.4%)、「インターネットなどで、必要な情報が得られるから」(39.7%)が多くなっている。

◆あなたが、図書館に期待することは何ですか。(〇はいくつでも)

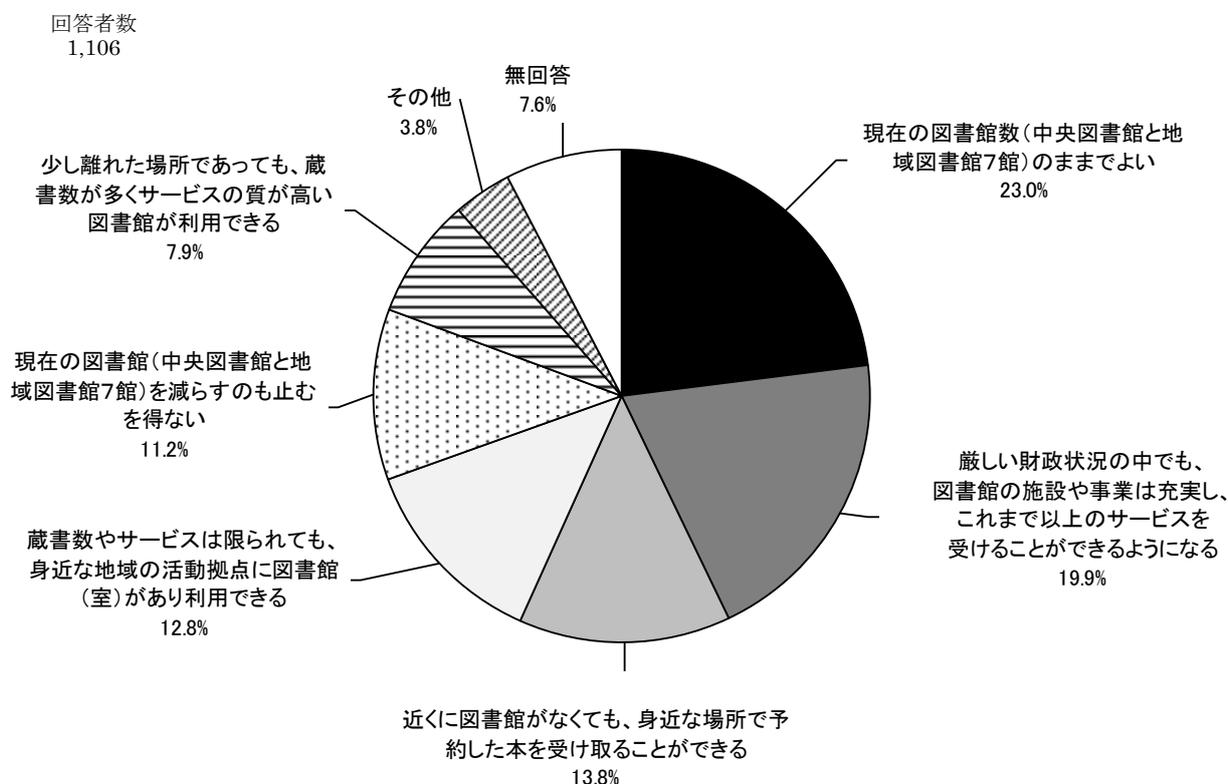


図書館に期待することについては、「図書の充実」(59.5%)が最も多い。

読み聞かせ等の親子向けの催しについては、全体では9.9%にとどまるが、30代女性に限ると34.4%と高い。

◆今後、町田市が図書館の見直しを進める上で、あなたが最も重要と考えることは何ですか。

図 図書館の見直しで最も重要と考えること



図書館の見直しで重要と考えることについては、図書館数等の現状維持(23.0%)と図書サービスの充実(19.9%)の合計が40%を超えており、それ以外の選択肢を選んだ人の割合は約50%であった。

性・年齢別に見ると、30代男性では「少し離れた場所であっても、蔵書数が多くサービスの質が高い図書館が利用できる」が、30代女性では「近くに図書館がなくても、身近な場所で予約した本を受け取ることができる」が最も多く、他の世代では、図書館数等の現状維持又は図書サービスの充実が多くなっている。

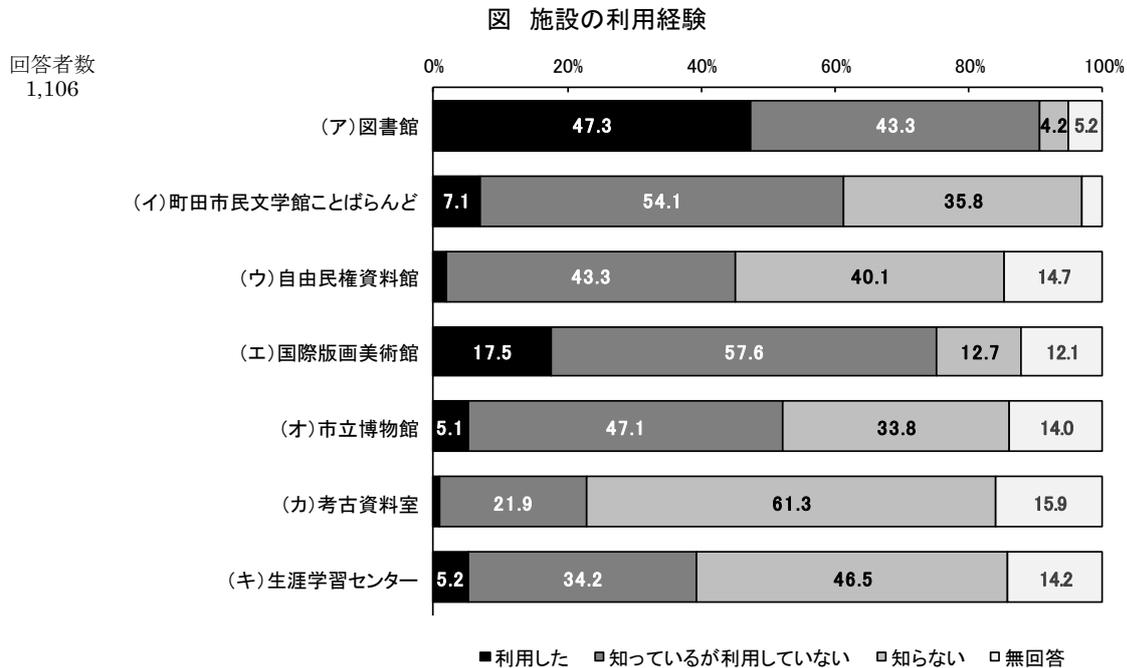
居住地域別では、回答の傾向に大きな差異は見られない。居住地域ごとの基数が少なく参考とはなるが、小山地区では「近くに図書館がなくても、身近な場所で予約した本を受け取ることができる」が最も多く、次いで「現在の図書館(中央図書館と地域図書館7館)を減らすのも止むを得ない」が多い。

この1年間で図書館を利用したことがある人について見ると、図書館数等の現状維持と図書サービスの充実の合計が50%を超えている。

その他(自由記述)では、学習スペースの拡大や駐車場の確保、移動図書館の充実など図書館サービスの充実に関する意見が見られた。

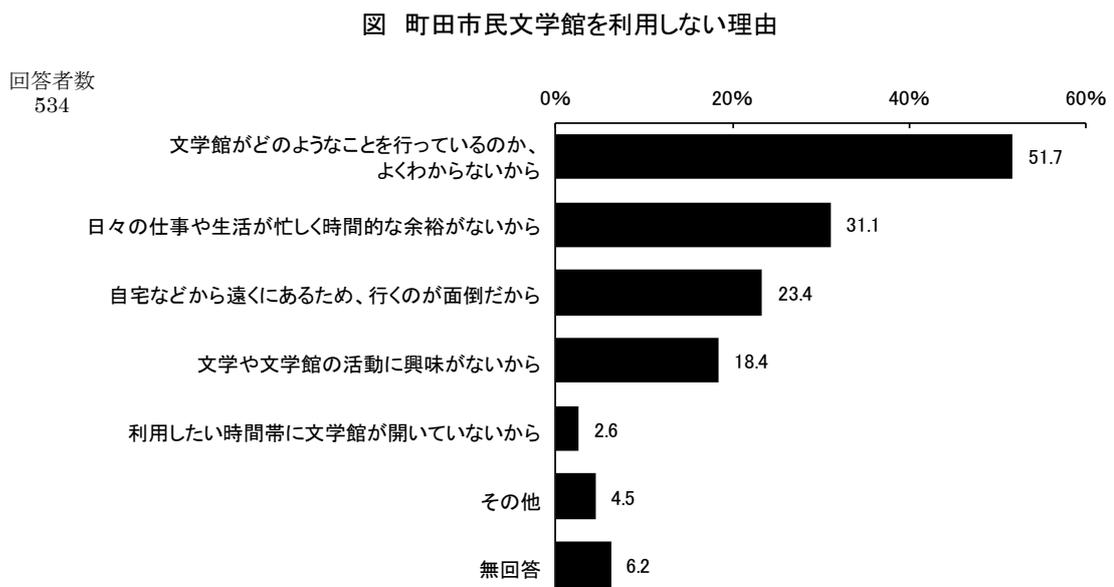
市民文学館について

◆あなたはこの1年間に、町田市内にある次の施設を利用しましたか。【再掲】



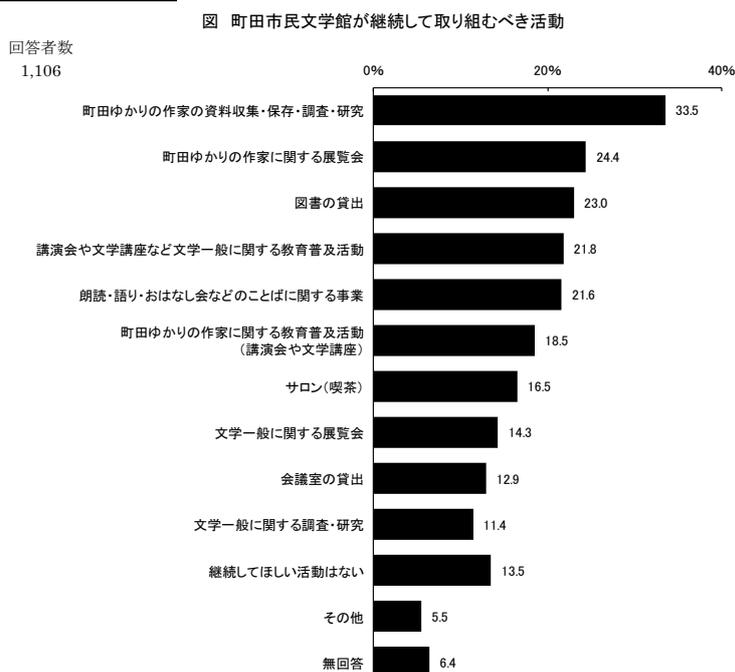
前回調査と比較して、市民文学館を知っている人の割合（42.5%→61.2%）、この1年間で利用した人の割合（6.8%→7.1%）とも増加している。

◆なぜ、文学館を利用されないのですか。（〇はいくつでも）



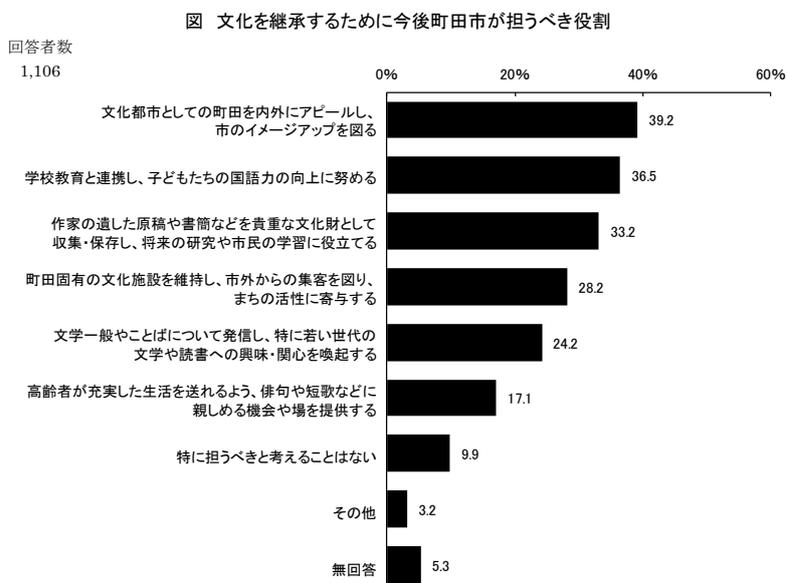
市民文学館を利用しない理由については、「どのようなことを行っているのか、よくわからないから」（51.7%）が最も多く、次いで、「時間的な余裕がないから」（31.1%）、「自宅などから遠くにあるため、行くのが面倒だから」（23.4%）が多い。

◆町田市民文学館では、次のような活動を行っています。これらの中で、今後も文学館が継続して取り組んだ方がよいと思う活動は何ですか。(〇はいくつでも)



市民文学館が継続して取り組むべき活動については、「町田ゆかりの作家の資料収集・保存・調査・研究」(33.5%)が最も多く、次いで「町田ゆかりの作家に関する展覧会」(24.4%)、「図書の貸出」(23.0%)が多くなっている。一方、「継続してほしい活動はない」(13.5%)と回答した人は1割台半ば近くとなっている。

◆町田市には、過去から現在に至るまで多くの著名な文学者が来住し、作品の中で町田を描いてきたという文化的特徴があります。このような文化を継承するために、あなたが今後、町田市が担うべきと考える役割は何ですか。

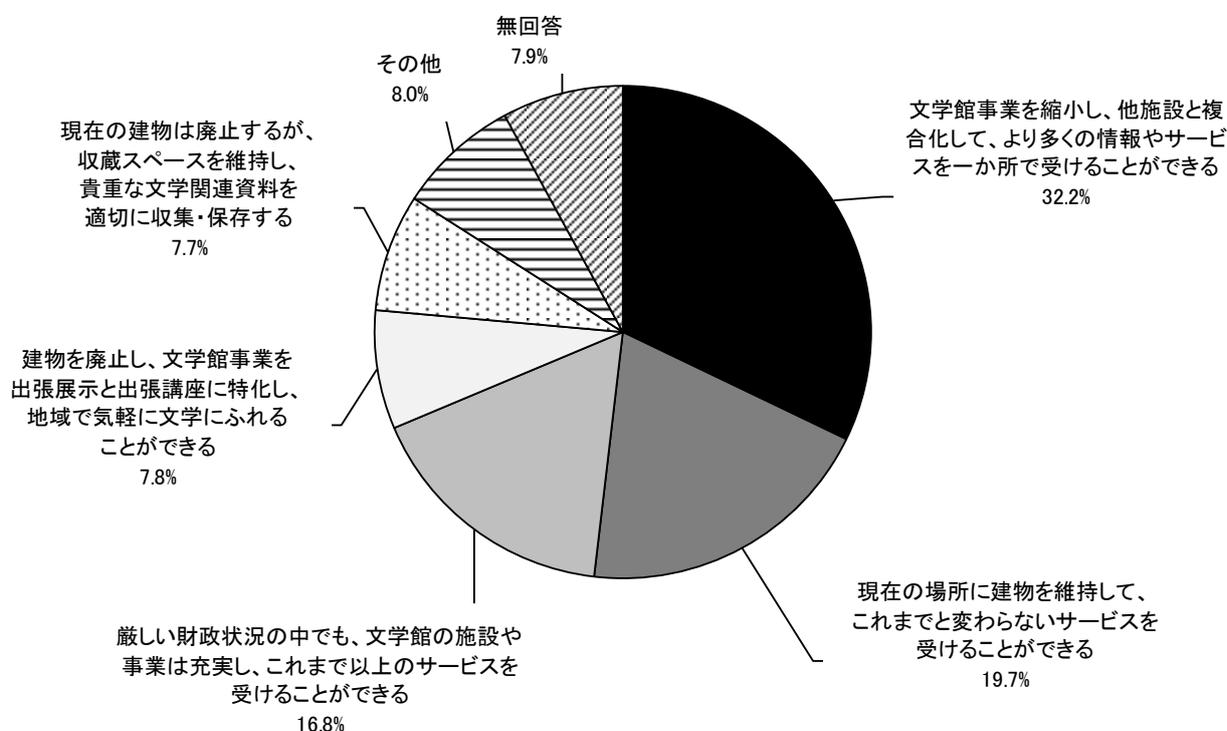


文化を継承するために今後町田市が担うべき役割については、「文化都市としての町田を内外にアピールし、市のイメージアップを図る」(39.2%)が最も多く、次いで「学校教育と連携し、子どもたちの国語力の向上に努める」(36.5%)、「作家の遺した原稿や書簡などを貴重な文化財として収集・保存し、将来の研究や市民の学習に役立てる」の順に多くなっている。一方、「特に担うべきと考えることはない」(9.9%)と回答した人は1割弱となっている。

◆町田市民文学館の施設の見直しを進める上で、あなたが最も重要と考えることは何ですか。

図 町田市民文学館の施設見直しで最も重要と考えること

回答者数
1,106



市民文学館の見直しで重要と考えることについては、事業を縮小しての他施設と複合化（32.2%）が最も多かったが、現状維持（19.7%）や施設や事業の充実（16.8%）も多い。

性・年齢別に見ると、20代男性では現状維持と施設・事業の充実が、20代女性と40代女性では現状維持が最も多く、他の世代では、事業を縮小しての他施設と複合化が多くなっている。

居住地域別では、回答の傾向に大きな差異は見られず、全地域において概ね、事業を縮小しての他施設と複合化、現状維持、施設や事業の充実の順に多くなっている。

市民文学館を利用したことがある人は、現状維持（37.6%）が多く、利用したことがない人・知らない人は、事業を縮小しての他施設と複合化（37.3%・29.3%）が多くなっている。

その他（自由記述）では、「市民文学館を知らないのわからない」が多かった。また、広報活動の充実、図書館との統合、施設の廃止などの意見が見られた。